

化学研究所

| | | | |
|----|-------|-------|---------|
| I | 研究水準 | | 研究 18-2 |
| II | 質の向上度 | | 研究 18-2 |

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度査読付き論文は 236 件に及んでおり、教員一名当たり約 2.4 件が掲載されている。国際学会の招待講演は平成 19 年度 61 件あり、国内外の学会賞の受賞は平成 19 年度 10 数件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択件数は約 100 件であり、教員一名当たりの獲得金額は年間 700 万円である。また、21 世紀 COE プログラム、グローバル COE プログラムを獲得し、研究活動の活性化を図っていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、化学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、化学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、新規フォトニクス材料、磁性材料、 π 電子系化合物、物質設計等について卓越した成果が得られており、インパクトファクターの高い国際誌に掲載されている。それらは、文部科学大臣賞や学会賞を受賞するなど高い評価を得ている。社会、経済、文化面では、工業としての応用可能な各種新規材料開発及び材料物性の発見や生命情報データ等の成果を挙げていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、化学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、化学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。